

平成20年度 教育委員会の自己点検及び評価報告書

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、平成19年度に教育委員会が実施した事務事業について自己点検及び評価を行い、狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会(教育に関する学識経験者を含む。)の意見を付して報告するものです。

点検評価項目	教育委員会における中期事業計画にともなう事務事業の見直しを図ること目的に、狛江市アクションプラン実施計画編に位置付けられる教育委員会の実施計画事業について、19年度の執行状況に基づく自己点検及び評価を行った。
総 評	全体をととして成果の記述が弱い。そのため、例えば数値目標上の進捗度なのか、目的達成に向けた進捗度なのか、何を基準に、進捗度を評価したのかわかりにくい。予算上の設定目標を消化したことを評価している傾向がみられるが、事業における目的、目標を踏まえて、成果をしっかりと把握する必要があるだろう。視点を転ずれば、目標設定に課題があるともいえるのではないかな。 また、自己点検及び評価であるにもかかわらず、自己に対し寛容すぎる感が否めない。まず、市民の視点を踏まえて評価することが大きな前提としてあることを認識されたい。自らを厳しく評する姿勢が必要だろう。 なお、当委員会に教育部長が参画していることから、今後の改善を期待する。

平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋) 第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。	狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会 <table> <tr> <td>委員長</td><td>磯山 伸芳(教育部長)</td></tr> <tr> <td>副委員長</td><td>長田 輝男(狛江市教育研究所次長)</td></tr> <tr> <td>委員</td><td>小松 雅彦(弁護士)</td></tr> </table> ■ 開催日程 第1回会議 平成21年3月10日(火)午後2時10分から 第2回会議 平成21年3月19日(木)午後2時00分から	委員長	磯山 伸芳(教育部長)	副委員長	長田 輝男(狛江市教育研究所次長)	委員	小松 雅彦(弁護士)
委員長	磯山 伸芳(教育部長)						
副委員長	長田 輝男(狛江市教育研究所次長)						
委員	小松 雅彦(弁護士)						

教育委員会自己点検及び評価表事業項目

1 学校教育

整理番号	事務事業名	ページ
1-1	学校安全対策費	1
1-2	就学相談関係費	2
1-3	図書整備（小学校）	3
1-4	図書整備（中学校）	4
1-5	理科教育等設備整備費（小学校）	5
1-6	理科教育等設備整備費（中学校）	6
1-7	生ごみ処理機関係費	7
1-8	中学校給食費	8

2 指導室

整理番号	事務事業名	ページ
2-1	教育研究所関係費	9
2-2	教育相談関係費	10
2-3	不登校対策支援	11
2-4	少人数授業講師派遣	12
2-5	ティーチングアシスタント	13
2-6	特別支援教育推進	14
2-7	教科領域研究奨励	15
2-8	教育研究推進	16
2-9	教職員研修等補助	17
2-10	子どもへの被害防止	18
2-11	地域交流推進	19
2-12	副読本関係費	20
2-13	連合行事関係費	21
2-14	児童・生徒健全育成	22
2-15	国際理解教育促進	23
2-16	情報教育推進費	24
2-17	学校プール指導員配置	25
2-18	夏季休業水泳指導	26
2-19	学校運営連絡協議会	27
2-20	学校ボランティア協力員	28
2-21	授業改善研究推進	29
2-22	学校図書館支援センター推進事業	30
2-23	夏季施設関係費	31
2-24	移動教室関係費（小学校）	32
2-25	部活動助成	33
2-26	移動教室関係費（中学校）	34
2-27	修学旅行関係費	35

3 社会教育

整理番号	事務事業名	ページ
3-1	学校開放	36
3-2	子どもフリースペース	37
3-3	こどもかけこみ110番	38
3-4	青少年育成事業補助金	39
3-5	地域交流図書室やさきやま文庫読書推進事業	40
3-6	子ども科学体験事業（子ども体験塾）	41
3-7	市民ホール指定管理業務費	42
3-8	文化財保護関係費	43
3-9	埋蔵文化財保護関係費	44
3-10	郷土芸能保存会補助	45
3-11	古民家園指定管理業務費	46
3-12	古民家復元	47

4 公民館

整理番号	事務事業名	ページ
4-1	青少年事業	48
4-2	チャレンジ青年学級	49
4-3	成人学習事業	50
4-4	女性セミナー	51
4-5	学習グループ保育	52
4-6	高齢者学習事業	53
4-7	国際交流事業	54
4-8	市民劇場	55
4-9	公民館交流事業	56
4-10	図書室	57
4-11	こまえ市民大学	58
4-12	情報学習事業	59

5 図書館

整理番号	事務事業名	ページ
5-1	読書推進	60
5-2	ホームページ運営費	61
5-3	ブックスタート事業	62
5-4	親子読書推進事業	63

6 体育館

整理番号	事務事業名	ページ
6-1	市民健康レクリエーション	64
6-2	少年少女スポーツ振興	65
6-3	市民スポーツ大会関係	66
6-4	西和泉体育館・西和泉グラウンド施設開放	67
6-5	体育施設改修工事	68
6-6	ふれあい広場等用地返還	69

（参考：P70）

泊江市教育委員会の自己点検及び評価実施要綱

泊江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会設置要綱

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 1-1

事務事業名	学校安全対策費	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	学校内及び通学途中等において、児童が犯罪等にまきこまれるのを未然に防止する。			
目標	小学校新一年生への防犯ブザーの配付、学校安全ボランティアの協力、学校安全巡回委託実施及び通学路案内表示板の更新		評価年度に達すべき目標	
成果	小学校新一年生へ防犯ブザーを配付、学校安全ボランティアの協力(登録709人)、学校安全巡回委託(1日4時間)及び通学路案内表示板(200ヶ所)の更新		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	3,315	17,222	5,491	A・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	ボランティアの登録は進んでいるが、通学路案内表示板の更新をしていない箇所がある。現状を踏まえて、学校安全巡回の配置時間について検討する必要がある。			
問題解決のための方策	4年計画を3年計画に変更し、早期に全通学路の案内表示板を更新する。学校安全巡回の配置時間を1時間増やし、5時間とする。			
予算要求等今後の方針	通学路案内表示板の更新費用を増額要求していきたい。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	成果のとりえ方が弱い、学校安全ボランティアの協力や学校安全巡回によって、子どもに対する犯罪の抑止効果となっていることは理解できる。今後も、十分なレベルを維持してほしい。犯罪発生率などの変化をとらえて効果を評価することが望まれる。安心安全については、事業面だけの進捗を捉えた場合、どこまでやればよいといった的確な指標が見えてこないと思う。そうした意味からも、進捗度評価の根拠についてははっきりしない。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 1-2

事務事業名	就学相談関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・(計画)	新規・(継続)

目的	心身に障がいのある就学予定者及び児童・生徒の適切な就学支援を目的とする。			
----	--------------------------------------	--	--	--

目標	就学前機関(保育園・幼稚園等)、医療機関、福祉関係機関とのエリアネットワークの構築及び特別な支援が必要な児童生徒の適切な就学支援	評価年度に達すべき目標		
成果	特別支援エリアネットワークとして、地域支援特別支援教育推進協議会を開催(2回) 特別な支援が必要な児童生徒の適切な就学支援が実施できた。 通級児童・生徒数 17年度40名、18年度55名、19年度62名 固定学級児童・生徒数 17年度35名、18年度33名、19年度36名	評価年度に達した成果		

決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	2,268	2,147	2,223	A (B) C D

- ※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	通級指導学級へ入級する児童・生徒は年々増加しており、支援を必要とする児童・生徒への迅速な対応が必要される。 多種多様な事情、障がいがある児童・生徒が支援を必要としており、画一的ではない様々な角度からの対応が要求される。
問題解決のための方策	通級指導学級への入級手続きについて、早急に支援が出来るよう、対応の弾力化を図る。 児童青少年部、指導室、その他の関係機関との連携を密にしていきながら、それぞれの実情に即した相談を進めていく。
予算要求等今後の方針	予算上は、現行の範囲内で運用していくことが可能であると考え、前年同様とするが、特別支援教育支援員の位置付けなどを整理し、今後の予算運用を検討したい。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	特別な支援を必要とする児童生徒に対し、各関係機関と連携し、きめ細かな対応が図られていると思う。こうした児童生徒が、年々、増加傾向にあるように見受けられるが、今後の事業展開に際し、しっかりした視点を持って取り組んでほしい。問題点・改善点、問題解決の方策については、さらに具体的に示されたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 1-3

事務事業名	図書整備(小学校)	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	学校図書館資源有効活用のための環境整備を図る			
目標	蔵書の充実、学校間のネットワークを利用して図書に関する多様な要求に応えるとともに、読書活動の充実を図る。		評価年度に達すべき目標	
成果	学校図書館蔵書達成率:95.6% 学校図書一人平均貸出し冊数:52冊(前年度46冊) 学校司書臨時職員勤務時間の延長(1日4時間を5時間) 司書連絡会12回開催		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	8,977	10,474	12,231	A・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	学校図書館に関する事業が、学校教育課と指導室に分かれて運営されており、適切な連携が求められている。 学校教育の現場において、学校図書館司書の担う役割が年々重要視されており、勤務時間を含め勤務体系の見直しが求められている。
問題解決のための方策	事業の見直しにより、事務分担の明確化を図るか、事業運営自体の統一化を図る必要があると考える。 学校図書館司書の配置時間の延長などを検討する必要がある。
予算要求等今後の方針	調べ学習等の授業にも対応できるよう、より一層の図書資料充実のための予算を要求するとともに、今後は、学校図書館司書の配置時間の延長なども検討していきたい。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	学校司書臨時職員の配置により、学校図書の貸出冊数が伸びているそうだが、学校司書臨時職員の積極的な取り組みによって、児童の読書への興味関心が高まった結果だと思われる。学校司書臨時職員が働きやすい環境整備ということが課題の一つではあると推察するが、今後も、図書館と学校間が連携し、よりよい図書資源の有効活用を進めることを期待したい。問題点・改善点、問題解決の方策については、さらに具体的に示されたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 1-4

事務事業名	図書整備(中学校)	区分		
		行政	政策	基礎的・義務的 計画 新規・継続
目的	学校図書館資源有効活用のための環境整備を図る			
目標	蔵書の充実、学校間のネットワークを利用して図書に関する多様な要求に応えるとともに、読書活動の充実を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	学校図書館蔵書達成率:102.4% 学校図書一人平均貸出し冊数:9冊(前年度8冊) 学校司書臨時職員勤務時間の延長(1日4時間を5時間) 司書連絡会12回開催			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	6,156	6,999	8,068	(A) B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	学校図書館に関する事業が、学校教育課と指導室に分かれて運営されており、適切な連携が求められている。学校教育の現場において、学校図書館司書の担う役割が年々重要視されており、勤務時間を含め勤務体系の見直しが求められている。
問題解決のための方策	事業の見直しにより、事務分担の明確化を図るか、事業運営自体の統一化を図る必要があると考える。学校図書館司書の配置時間の延長などを検討する必要がある。
予算要求等今後の方針	生徒に対するリファレンスにも対応できるよう、より一層の図書資料充実のための予算を要求するとともに、今後は、学校図書館司書の配置時間の延長なども検討していきたい。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	貸出冊数は小学校を下回っており、進捗度評価をAとした理由がわかりにくい。蔵書達成率のみを評価として捉えるのではなく、多角的に評価することが必要である。今後も、図書館と学校間が連携し、よりよい図書資源の有効活用を進めることを期待したい。問題点・改善点、問題解決の方策が小学校と同じであるはずはないと思う。中学校としての課題を検討し、さらに具体的に示されたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 1-5

事務事業名	理科教育等設備整備費(小学校)	区分		
		行政 ○政策	基礎的・義務的 ○計画	新規 ○継続
目的	理科教育の振興を図る。			
目標	理科教育設備整備費等補助金交付要綱に基づいた理科教育設備整備費基準金額の現有率を向上させる。	評価年度に達すべき目標		
成果	理科設備:18年度末現有率 30.9% → 19年度末現有率 35.7% 算数設備:18年度末現有率 31.2% → 19年度末現有率 44.4%	評価年度に達した成果		
決算額	17年度	18年度	19年度	進捗度
	1,761	1,789	1,778	A・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	本事業の主旨から、計画的かつ長期的な現有率の向上を目指さなければならないが、担当教諭の交代などにより、購入方針が変更されることが多い。
問題解決のための方策	担当教諭に対し、本事業の主旨を周知するとともに、学校としてより計画的かつ長期的な理科教育設備整備の振興を図るよう要請していく。
予算要求等今後の方針	前年同様の予算を要求する。 ※ 当予算は、市の一般財源と理科教育等設備整備費補助金の割合を考慮し、総合的に判断されている。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	説明不足、何を重点目標にしているのかわからない点是否めないが、理科離れが進んでいるといわれており、今後も理科教育推進のための、さらなる環境整備に尽力してほしい。そうした点からも、問題点・改善点、問題解決の方策については、さらに具体的に示されたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 1-6

事務事業名	理科教育等設備整備費(中学校)	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	理科教育の振興を図る。			
目標	理科教育設備整備費等補助金交付要綱に基づいた理科教育設備整備費基準金額の現有率を向上させる。		評価年度に達すべき目標	
成果	理科設備:18年度末現有率 41.5% → 19年度末現有率 42.3% 数学設備:18年度末現有率 2.2% → 19年度末現有率 2.9%		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	2,701	2,299	2,733	A・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	本事業の主旨から、計画的かつ長期的な現有率の向上を目指さなければならないが、担当教諭の交代などにより、購入方針が変更されることが多い。
問題解決のための方策	理科教育設備整備費等補助金の他教材整備事業補助金で備品整備を進める。また、担当教諭に対し、本事業の主旨を周知するとともに、学校としてより計画的かつ長期的な理科教育設備整備の振興を図るよう要請する。
予算要求等今後の方針	前年同様の予算を要求する。 ※ 当予算は市の一般財源と理科教育等設備整備費補助金の割合を考慮し、総合的に判断されている。 ※ 平成21年度では新学習指導要領の実施のための教材整備事業補助金があるため、前年度予算に加え、備品購入費の増額を要求していく。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	説明不足、何を重点目標にしているのかわからない点はあるが、理科離れが進んでいるといわれており、今後も理科教育推進のための、さらなる環境整備に尽力してほしい。問題点・改善点、問題解決の方策が小学校と同じであるはずはないと思う。中学校としての課題を検討し、さらに具体的に示されたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 1-7

事務事業名	生ごみ処理機関係費	区分											
		行政	政策	基礎的・義務的	計画	新規	継続						
目的	生ごみの減量を目的とする。												
目標	生ごみの減量とともに、生ごみ処理機の利用により生ごみのリサイクル処理を進める。					評価年度に達すべき目標							
成果	生ごみの残渣引取委託量が19年度は18年度比26%の減になった。 生ごみ排出量 17年度:約50t 18年度:約47t 19年度:約43t					評価年度に達した成果							
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度									
	2,042	5,480	1,586	A (B) C D									
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。													
問題点・改善点	緑野小学校以外は生ごみ処理機が老朽化しているので、新しいものに順次交換していく必要がある。 リサイクルを推進するとともに、給食の残さを減らす努力が必要である。												
問題解決のための方策	財政事情を考慮し、老朽化した生ごみ処理機は修繕対応をしながら使用するが、計画的に交換を進める。 また、給食の残さが減るように、栄養士へ情報を提供するとともに連携を図る。												
予算要求等今後の方針	老朽化が進んでいる生ゴミ処理機を、計画的に順次新しいものに交換できるよう予算要求していく。												
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	事業の基本である生ごみ処理方法の記載がなく、こういった流れなのかわからない。説明責任の立場から再考されたい。学校における給食指導、栄養士や給食調理の取り組みによって、生ごみは減少傾向にあるようだが、さらに啓発に努めてほしい。												

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 1-8

事務事業名	中学校給食費	区分									
		行政	政策	基礎的・義務的	計画	新規	継続				
目的	ミルク給食から移行し、学校給食法に則り、ボックスランチ方式(デリバリーによる弁当方式)による中学校給食を提供するための整備をする。										
目標	中学校給食の実施に向け、実施方法等を決定し、教育委員会として説明責任を果たすとともに、市民等との合意形成を進める。安心安全な中学校給食が実施できるよう関係機関及び関係者と調整を図る。						評価年度に達すべき目標				
成果	中学校給食調理業務委託業者選定(審査会等計5回)、中学校給食実施素案調整(検討委員会計6回)、中学校給食実施素案説明会(計8回、参加者人数延べ51名)、実施素案に対するパブリックコメントへの回答公表、中学校給食支援システム委託業者選定、中学校給食衛生管理マニュアル作成						評価年度に達した成果				
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度							
	3,772	3,809	3,877	A (B) C・D							
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。											
問題点・改善点	生徒、保護者に対するボックスランチ方式への理解を深め、喫食率の向上を図っていく必要がある。また、安心安全な給食を実現するため、調理委託業者の学校給食に対する理解を求め、衛生面等の意識の向上を要求していく必要がある。										
問題解決のための方策	生徒、保護者及び中学校へ積極的に情報を発信することで給食に関する理解を浸透させる。学校給食運営委員会を設置し、給食運営の充実を図るとともに、委託業者との連携を密に進め、意識の向上を図っていく。										
予算要求等今後の方針	平成20年度は給食開始に伴う整備等の予算運用が主なものであり、次年度以降は、前年度の実績を踏まえ、予算内容を精査していくが、よりよい給食を運営していく観点からも、十分な検討を加えていく。										
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	安心安全な中学校給食実施に向けた具体的な検討や保護者への説明責任など目標到達への努力が伺われる。20年度の実施に目途を付けたことは評価に値するが、実施後においても、常に改善への努力や生徒、保護者等への説明責任を怠ることなく運営していくことを期待する。特に生徒や保護者に対し意見聴取やアンケートなどを実施し、実態把握に努められたい。										

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-1

事務事業名	教育研究所関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	教職員の資質向上と学校教育の充実のための施設整備等			
目標	学校の管理運営や授業力の向上を目指した教職員の研修、専門的な助言を行う教育相談や不登校児童生徒の学校復帰を目指した適応指導教室及びゆうあいフレンド事業、また特別支援教育のための諸事業の充実のために施設整備等を進める。			評価年度に達すべき目標
成果	・教員研修「優れた授業に学ぶ」8回実施し、若手教員の育成を図った。(国語2、社会2、音楽、図工、体育、情報、学級活動) ・学校図書活用関係の資料収集、学校提供、保管した。 ・教科書見本を整理し保管し、来館者への貸出をした。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	4,254	4,308	4,629	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	施設老朽化による改修・修繕が必要などところがある。			
問題解決のための方策	屋上・外壁防水塗装等工事実施する。			
予算要求等今後の方針	防水塗装等工事のために増額する。(管財課へ)			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	事業の拡充を図ったようだが、成果を見る限りよくわからない。施設以外にも教育環境の整備という点から教育研究所の機能充実について、評価することを求めたい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-2

事務事業名	教育相談関係費	区分											
		行政	政策	基礎的・義務的	計画	新規	継続						
目的	教育相談の充実												
目標	小学校の相談体制の充実を図るとともに、特別支援教育にかかわる発達相談やことばと聞こえに関する相談に対応できる体制をつくる。					評価年度に達すべき目標							
成果	・教育相談件数前年比1.3増になった。 ・言語聴覚士の資格をもった相談員を配置し、学校への派遣もした。					評価年度に達した成果							
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度									
	6,273	6,476	7,734	A・B C・D									
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。													
問題点・改善点	相談件数の増加にともない、相談員の勤務日数、雇用条件の検討が課題である。相談業務用品の老朽化と不足がある。												
問題解決のための方策	相談員の勤務日と時間を調整する。相談業務用品の整備が必要である。												
予算要求等今後の方針	相談員の雇用条件についての検討をする。診断検査用具購入のために増額をする。												
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	保護者や教員からの相談内容が多岐にわたっていると同時に、増加傾向にあるようだ。ニーズに応えるためには、さらなる人的配置が望まれるが、相談員の学校派遣によって、その結果何が得られたのか示し、それを踏まえて評価する必要があると思われる。												

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-3

事務事業名	不登校対策支援	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	不登校児童・生徒の学校復帰を援助する			
目標	不登校傾向にある児童生徒の学校復帰を目指し、教育研究所に設置する「ゆうゆう教室」や「ゆうあいフレンド」事業の充実を図る。また、教育研究所の専門教育相談員を小学校へ派遣し、スクールカウンセラーとして各学校の実態に応じた、きめ細かい相談活動を展開する。			評価年度に達すべき目標
成果	- 各小学校へ担当相談員を週1回派遣し一日常駐し、児童や教員、保護者の相談に応じるとともに、継続面接を実施することができた。 「ゆうゆう教室」で指導員が計画的に取組み、教科等指導、自立のための行事実施。 (平成20年度、学校復帰小学校1名中学校2名)			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	10,318	12,605	12,010	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	ここ2年は、ゆうあいフレンド該当者減だが、いつ必要になるか分からないので予算準備は必要である。 小学校教育相談対応者数増であることと、家庭的背景に起因するものがあり、専門資格をもった人材が必要である。			
問題解決のための方策	教育相談員の小学校派遣日数を増やす。(ソーシャルワーカーも検討する。)			
予算要求等今後の方針	事業内見直し調整をして、1名相談員を増やすために増額する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	学校や関係機関との連携に努め、学校復帰への支援、相談活動を展開している様子であるが、事業活動面の成果だけでなく、不登校支援の結果というものを示し、その上で評価することが必要である。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-4

事務事業名	少人数授業講師派遣	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	児童・生徒の基礎学力の向上ときめ細やかな指導			
目標	確かな学力の定着を目指し、各学校の個に応じた指導の工夫改善に対応するため、非常勤講師を配置し、ティーチング・アシスタントや少人数指導及び小学校における教科担任制を推進し指導効果を高める。			評価年度に達すべき目標
成果	・小学校6校7人、中学校4校7人 1,674時間配置し、各学校の少人数指導や、教科担任制で活用して個に応じた指導を進めた。 ・全国学力・学習状況調査では、市全体の平均正答率は、全国平均を上回っている。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	4,277	4,835	4,732	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	基礎学力定着度の学校間のばらつきがみられる。			
問題解決のための方策	学力向上に課題がある学校へ、さらに講師1人分増やしたい。			
予算要求等今後の方針	講師1人分の賃金増やすために増額する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	学習習熟度に応じた指導は、児童生徒一人ひとりに基礎学力、基本学力を身につけさせるためには大変効果があると思われる。今後も、確かな学力の定着のため十分な人的配置を行ってほしい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-5

事務事業名	ティーチングアシスタント	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	教職及び心理職を志す大学(院)生を学習補助として活用する。			
目標	各学校の個に応じた指導を支援する人的措置として、近隣の大学と提携し、教職を志望している大学生及び大学院生をティーチングアシスタントとして配置する。また、小学校の理科については実験等を通して理科教育の充実を図るために理科支援員を配置する。			評価年度に達すべき目標
成果	・小学校へは延べ493回、中学校へは延べ182回派遣し、個別指導や通常学級で特別支援が必要な児童生徒への対応、行事や部活での補助をすることができた。 ・理科支援員は、小学校1校、5・6学年に256時間配置し、実験観察の補助等をすることができた。(H20は2校配置) ・アシスタント登録を増やした。(H19. 71名 H20. 81名)			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	582	1,033	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	各学校個に応じた指導の需要が増えている。(H19延べ675回、H20延べ1200回予定)			
問題解決のための方策	T・A(ティーチング・アシスタント)派遣数を増やす。関係大学への協力依頼や広報による募集を行う。			
予算要求等今後の方針	アシスタント謝礼増に伴う予算を額増する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	小人数授業講師派遣と同様に児童生徒一人ひとりに基礎学力、基本学力を身につけさせるためには大変効果があると思われる。また、別の観点からは教職等を志す学生の人材育成という面もある。児童生徒の確かな学力の定着だけでなく、これからの教育を担う人材育成という点でも拡充を図っていくことを期待している。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-6

事務事業名	特別支援教育推進	区分		
		行政 ☐ 政策 ☒	基礎的・義務的 ☐ 計画 ☒	新規・継続 ☐
目的	特別支援教育の推進と個別対応実施			
目標	通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒に対し、校内委員会や巡回相談の実施、特別支援教育ティーチングアシスタントの配置をととして、個々のニーズに的確に応える指導体制づくりを推進する。			評価年度に達すべき目標
成果	・専門家チームを構成し、各学校に年3回巡回した。 ・児童生徒の観察や担任からの状況報告により、専門的な指導助言を受けたり、今後の指導方針を立てたりすることができた。 チーム(大学教授、医師、相談員、スクールカウンセラー、特別支援学校コーディネーター、特別支援学級担任、各校コーディネーター)			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	635	835	☒ A・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	専門家チームの日程調整と確保をすることが難しい。医療関係専門家が複数必要である。			
問題解決のための方策	本年度と同じに、各校3回の巡回日程を組むために、前年度中に調整をする。さらに医師等を捜し依頼する。			
予算要求等今後の方針	本年度同様			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	専門家チームによる巡回相談など特別支援教育の推進について、今後も努力されたい。特別支援教育推進という観点からは、予算事業に限定せず、現状と課題の分析から評価を望む。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-7

事務事業名	教科領域研究奨励	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	教員の研修に対する支援・援助			
目標	若手教員を育成するグループ研究を活性化するとともに、学校経営や教科指導に資する研究会への参加を促進させ、教職員の指導力の向上を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	・申請のあった、教員6グループが、年間を通して実践研究を行った。 ・各学校が指導資料とするため、研究成果を報告書としてまとめ、配布した。 ・研究内容(国語3テーマ問題解決、総合的な学習、心の教育など)			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	540	1,040	1,034	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	各学校への研究成果の還元を効果的に行う。 必要な教育課題研究への方向を示す。			
問題解決のための方策	成果のとりまとめを早めに行い、学校に配布する。			
予算要求等今後の方針	本年度同様			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	活発な研究活動を推進することにより、教員の指導力向上が図られていることと思うが、成果や問題解決の方策をもう少し具体的に示してほしい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-8

事務事業名	教育研究推進	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	研究・研修奨励推進 指導力の向上			
目標	狛江の教育21研究協力校1校及び研究奨励校2校を指定し、教育課題に対する実践的研究を行い、学校教育の質的向上を図る。また人権教育、道徳教育、小学校生活科の指導の充実に努めるとともに、個に応じた指導の一層の充実を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	- 研究奨励校小学校1校中学校1校が年間を通し研究を進めることを支援し、教員の授業力向上を図るとともに、授業公開を含む研究発表を行うことができた。 - 研究成果を資料としてまとめ、各学校に配布した。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	3,371	3,000	3,049	(A)・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	新教育課程の円滑な実施のために、各学校で効果的な研究を行い市内各校に還元する。
問題解決のための方策	指導要領改善重点にかかわる資料作成を進める。
予算要求等今後の方針	新教育課程資料作成(狛江市版伝統文化指導資料)委員報償と製本をするために予算を額増する。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	教員の指導力の向上や個に応じた指導充実のための研究に対する支援ということだが、成果の記述内容から進捗度評価がAとはならないのではないかと。また、問題解決の方策をもう少し具体的に示してほしい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-9

事務事業名	教職員研修等補助	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	教員の資質向上と学校教育の充実			
目標	市立小学校教育研究会及び市立中学校教育研究会の研究活動を奨励し、教職員の資質の向上を図ることにより、信頼される学校教育を実現する。		評価年度に達すべき目標	
成果	・小学校教育研究会、中学校教育研究会で月例研究実施と成果資料配布をした。 ・平成20年3月28日発行「狛江の教育」第93号に研究活動報告を記載し成果を発信した。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	1,500	1,000	1,000	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	研究成果を積極的に発信する。			
問題解決のための方策	「こまへの教育」に必ず掲載する。			
予算要求等今後の方針	本年度同様			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	小中学校の教育研究会の研究活動を奨励し、資質の向上を図るとのことであるが、成果の記述内容から進捗度評価がAとはならないのではないか。問題解決の方策について、もう少し具体的に示してほしい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-10

事務事業名	子どもへの被害防止	区分		
		行政 ☒ 政策	基礎的・義務的 ☒ 計画	☒ 新規 ☒ 継続
目的	子どもの被害防止活動への支援			
目標	学校の内外における安全確保は、子どもの人権尊重の観点からも重要課題である。児童・生徒自身はもとより保護者や学校、地域社会が連携して行う子どもの被害防止に向けた各学校の取組を推進する。			評価年度に達すべき目標
成果	・全校被害防止のための方策や事業を実施することができた。 (侵入者防止用備品設置、いじめ防止研修実施、小集団下校用表示設置等)			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	—	470	☒ A B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	効果的な活用の情報を提供して、各校に啓発する。
問題解決のための方策	各校の活用状況を紹介する。
予算要求等今後の方針	本年度同様。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	救命救急講習会やいじめ防止研修などを実施しているようだが、目標に掲げる地域の協力がどうなっているのか見えてこない。地域の協力についても把握することが必要ではないか。問題点・改善点や問題解決の方策の記述が簡単かつ抽象的すぎるので、具体的に示してほしい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-11

事務事業名	地域交流推進	区分		
		行政 ☒ 政策	基礎的・義務的 ☒ 計画	新規 ☒ 継続
目的	開かれた学校づくりの推進			
目標	各学校で行われる様々な地域交流活動を支援し、地域に根ざした教育活動の充実を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	・各校で特色ある交流事業展開することができた。 (夏祭り運営、あいさつ運動プレート作成、米作り豆作り講師招聘、安全ボランティアへの通信、職場体験旗作成など)			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	400	400	☒ A B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	各校の効果的な活用情報を発信する。			
問題解決のための方策	活用状況を紹介する。			
予算要求等今後の方針	一定の成果があるため減額する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	地域の方々の協力を得ながら、地域との交流活動を展開し、特色ある学校づくりに努めているようであるが、問題点・改善点や問題解決の方策の記述が簡単かつ抽象的すぎるので、具体的に示してほしい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-12

事務事業名	副読本関係費	区分		
		行政 ☒ 政策	基礎的・義務的 ☒ 計画	新規 ☒ 継続
目的	社会科、体育科、道徳の指導資料とする。			
目標	小学4年～6年で使用する体育及び小中学校で使用する道徳の副読本、小学校で使用する「わたしたちの東京」及び狛江の教員が編集する「わたしたちの狛江市」「小中学校推薦図書案内」を選定、編集、配布することによって、指導の充実を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	・前年度末に副読本を配布し、授業活用ができた。 ・「小中学校推薦図書案内」を配布し、読書推進をした。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	5,890	3,971	6,650	☒ A B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	該当児童・生徒数増、図書紹介本の残部が少ないので増刷しておく。			
問題解決のための方策	副読本、図書紹介本を児童・生徒数から見通して増刷する。			
予算要求等今後の方針	増刷分の予算を増やす。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	狛江市の副読本は教員の積極的な関わりにより作成され、充実した内容で高く評価できるものとのことであるが、成果を見る限りそうしたことがわからない。それを踏まえて考えると、成果の記述内容から進捗度評価がAとはならないのではないかと。また、問題解決の方策をもう少し具体的に示してほしい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-13

事務事業名	連合行事関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	学校合同事業による教育的効果を上げる。			
目標	音楽を通して市内の小中学校の児童・生徒が学校を越えて共に学び、育つ場を確保し、情操教育の効果を高める。			評価年度に達すべき目標
成果	・鑑賞教室では、小学校6学年と中学校2学年の児童生徒が、それぞれエコルマホールで東京都交響楽団による演奏を聞くことができた。 ・音楽会実施(小学校連合音楽会1回・中学校連合音楽会1回合同音楽会1回)			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	2,834	2,857	2,947	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	特にないが、今後「音楽の街狛江」としての特色を出す。			
問題解決のための方策	共通に演奏する曲に古くからの日本の曲などを取り上げる。			
予算要求等今後の方針	本年度同様			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	情操を育み、学校の垣根を越え、共に学ぶ場として教育効果は高いと思われる。良質な文化芸術に触れるより多くの機会の提供が望まれる。ただし、自己点検及び評価に関しては、不十分さが目立つ。成果の記述内容から進捗度評価がAとは思えず、また、問題点・改善点の「特にない」といった記述や問題解決の方策の短い記述に対し、さらなる改善を求めたい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-14

事務事業名	児童・生徒健全育成	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	教育問題専門家による講演により教育啓発を行う。			
目標	市内の小中学校に子どもが在籍する保護者や教職員及び健全育成にかかわる市民を対象に有識者が講演を行い、教育問題を共に考えることを通して、市全体の教育力向上を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	・H19講演会「子どもの心と体～つけておきたい生活習慣」講師：淑徳大学教授 松田博雄 ・保護者、教員、市民計130人参加			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	99	99	74	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	さらに参加者を増やす。			
問題解決のための方策	市民ニーズや教育課題に応じた講演内容、講師選定を工夫する。			
予算要求等今後の方針	本年度同様			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	今後も継続実施し、教育おける課題について、より多くの保護者、市民に関心を持ってもらうことが大切である。問題点・改善点には、「参加者を増やす。」とあるが数値目標はあるのか。問題解決の方策には「市民ニーズ」とあるが、調査等をして把握したのか。講演会では、アンケートを実施し、参加者の感想などを得ていることと思う。その結果などを踏まえ、内容を検討してもらいたい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-15

事務事業名	国際理解教育促進	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	国際理解教育の推進・援助			
目標	国際理解教育や新指導要領における外国語活動及び中学校の英語指導におけるコミュニケーション能力の充実を図るためにALT(英語指導助手)を配置する。また、日本語が話せない児童生徒に対し、日本語の適応指導のための指導員を派遣する。			評価年度に達すべき目標
成果	・小・中学校1校35日ALT配置した。 ・指導内容質の向上のため19年度末にALT(英語指導助手)委託業者選定を実施し、業者替えをした。 ・日本語指導講師派遣延べ333時間(対象児童3名生徒1名)			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	6,188	5,688	6,442	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	新学習指導要領小学校外国語活動のための教員研修が必要である。転入外国人児童・生徒が増えているので日本語講師登録を増やす。			
問題解決のための方策	小学校教員外国語活動にかかわる研修を年3回設定する。日本語指導回数を増やす。			
予算要求等今後の方針	日本語指導回数増による報償費を増やす。小学校外国語研修予算を明確に位置づける。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	英語指導助手や日本語指導講師の派遣など英語指導の充実や日本語に不自由している児童生徒のコミュニケーション能力の向上などに効果をあげているようである。ますます国際化が進展している現状において充実に努められたい。問題点・改善点、問題解決の方策に、数値的な目標値などを示す必要はないのであろうか。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-16

事務事業名	情報教育推進費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	情報教育推進、探求・表現活動の充実			
目標	児童生徒がコンピュータに親しみ、IT活用能力を身につけさせる学習指導が充実するよう、情報機器の環境整備を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	・児童・生徒使用のパソコン室パソコンの順次リース更新 ・教員用パソコン一人一台配布完了、事務作業効率化			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	68,652	68,628	66,598	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	個人情報保護の対策が必要。パソコン用備品の破損が出ている。			
問題解決のための方策	個人情報保護にかかわるセキュリティ対策を実施する必要性があり、20年度中にセキュリティ対策のための整備を行う。備品補充または交換をする。			
予算要求等今後の方針	本年度とほぼ同額 ※ セキュリティ対策については、20年度に予備費対応した。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	教員一人一台のパソコン配備など、ICT(情報通信技術)教育推進の上でインフラ整備として評価できるが、同時に個人情報保護や情報モラル教育などソフト面の取組みも進めていかなければならないこと、この点についても点検、評価する必要があることを認識されたい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-17

事務事業名	学校プール指導員配置	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	指導員の配置による安全確保及び指導の充実			
目標	通常の体育科における水泳指導において指導員の配置をして、安全確保及び指導の充実を図る。(1学年3学級未満が対象)			評価年度に達すべき目標
成果	・水泳指導員延べ88人配置、事故等皆無である。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	320	335	223	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	特にない。			
問題解決のための方策	指導員適正配置により安全確保をする。			
予算要求等今後の方針	本年度同様			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	プール指導における安全確保は確実に行われなければならないものである。安全確保と指導充実については、確実な成果があることであると思うが、問題点・改善点の「特にない」といった記述や問題解決の方策の短い記述に対し、さらなる改善を求めたい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-18

事務事業名	夏季休業水泳指導	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	特別支援副籍事業水泳指導員配置			
目標	夏季休業日の水泳教室及び特別支援学校に通学する児童・生徒との交流活動として実施する夏季水泳教室の安全確保及び指導の充実を図るため、指導補助員を配置する。		評価年度に達すべき目標	
成果	・副籍事業水泳該当児童生徒が14名参加し延べ57回安全実施できた。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	1,956	1,853	1,835	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	指導員確保や保護者説明会開催に調整時間がかかる。			
問題解決のための方策	指導員確保や保護者説明会調整を室内係で調整して行う。			
予算要求等今後の方針	本年度とほぼ同様			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	特別支援学校に通学する児童生徒との交流の場として意味があると思う。補助員の確保に苦慮しているようだが、その点について、この評価では見えてこない。市民の目線で評価することを期待する。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-19

事務事業名	学校運営連絡協議会	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	開かれた学校運営の推進			
目標	学校運営について、外部からの評価や協力関係を協議する学校運営連絡協議会を各学校に設置し、保護者、地域住民、近隣学校関係者、有識者と意見交換するなかで教育内容の向上を図る。		評価年度に達すべき目標	
成果	各校協議会年3回実施		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	220	170	154	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	特にない。			
問題解決のための方策				
予算要求等 今後の方針	学校関係者が構成員になっているため謝礼執行なしの実績から減額する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	地域に開かれた学校づくりに一定の効果をあげていると思われるが、成果の記述が協議会の実施回数のみであり、成果になっていないのではないかと。もう少し協議会の結果や得たものを記す必要があると思う。進捗度がAという評価には疑問を感じる。問題点・改善点の「特にない」といった記述や問題解決の方策の記述がない。評価について、さらなる改善を求めたい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-20

事務事業名	学校ボランティア協力員	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	小・中学校における教育活動への支援			
目標	様々な分野で専門性を有する市民が、学校ボランティア協力員として登録し、学校の要請に基づき教育活動に支援をする体制を整え、地域に開かれた学校づくりを推進する。			評価年度に達すべき目標
成果	・学校のニーズに応じた登録を推進した。 ・登録者66名、(学校を通した申請62、一般応募2) ・内容(教科指導の補助、総合的な学習補助、介助を要する児童・生徒への支援、花壇の手入れ、クラブ・部活動補助等)			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	18	30	A・(B)・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	学校を通しての登録者は、他校での活動は希望しない。
問題解決のための方策	各学校のニーズに応じて登録を進める。
予算要求等今後の方針	本年度同様
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	地域力を活用した開かれた学校づくりを推進していることはわかるが、ボランティア協力員の活動を具体的な成果として記述してほしい。問題点・改善点の捉え方が違うように感じる。具体的ニーズは各学校違いがあると思うので、その点を十分踏まえて事業を展開してほしい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-21

事務事業名	授業改善研究推進	区分		
		行政 政策	基礎的・義務的 計画	新規・継続
目的	学ぶ態度や意欲を向上し、基礎学力を定着させる。			
目標	東京都教育委員会授業改善推進校 狛江第三中学校研究推進の研究発表により全市の学校に成果を還元する。		評価年度に達すべき目標	
成果	・教員の指導力が向上した。授業改善推進資料を市内10校に配布した。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	—	250	Ⓐ B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	特になし
問題解決のための方策	
予算要求等 今後の方針	平成19年度東京都委託事業 終了
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	教員の指導力がどのように向上したのか。もう少し中身を記してほしい。成果の記述のとおり中学校の教員の指導力が向上したことは高く評価すべきであるが、成果と評価が結びついていないことは否めない。進捗度をAとした理由を明らかにしてほしい。問題点・改善点の「特になし」といった記述や問題解決の方策の記述がない。評価について、さらなる改善を求めたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-22

事務事業名	学校図書館支援センター推進事業	区分		
		行政 ☒ 政策	基礎的・義務的 ☒ 計画	☒ 新規 ☐ 継続
目的	学校図書館活用推進、読書指導充実			
目標	文部科学省が実施主体として行う学校図書館支援センター推進事業を受託し、狛江市立小中学校全体の学校図書館資源を有効に活用する学校図書館の効果的な運営の在り方等について、調査研究を行う。			評価年度に達すべき目標
成果	・調査研究協力校小学校1校、中学校1校実施した。研究成果資料を全校に配布した。 ・情報収集14自治体、視察3箇所、地域人材リスト作成、推薦図書利用コーディネート、センター図書購入調査実施、購入貸し出し実施した。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	—	2,853	☒ A B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	図書館活用のための資料は継続的配布が必要である。 担当者協議会の継続を検討する。
問題解決のための方策	成果としての指導資料等は増刷して配布できるよう予算を確保する。
予算要求等今後の方針	平成20年度国庫事業終了のため、学校図書館「指導の手引き」を副読本関係費に計上しておく。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	研究成果をまとめ、各学校へフィードバックしたことについては、評価すべきである。今後も、より充実した学校図書館のあり方を模索するために、担当者協議会の継続については、ぜひとも実現されたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-23

事務事業名	夏季施設関係費	区分		
		行政 ☒ 政策	基礎的・義務的 ☒ 計画	新規・継続 ☒
目的	保護者の負担軽減			
目標	校外活動をととして自然体験や集団行動の体験を積ませるために、小学5年で実施する夏季施設に参加する児童に対し、補助金を交付することによって、保護者負担の軽減を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	・校外学習実施による自然体験、集団体験充実(小学校5学年一人あたり7,000円) ・小学校5学年、2泊3日、夏季休業中実施			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	5,814	5,758	5,618	☒ A B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	特になし。			
問題解決のための方策				
予算要求等今後の方針	児童数増のため増額する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	保護者の負担軽減を図る目的は達成できたと思うが、他市との比較などを含め実態把握に努め、補助金制度として課題があれば具体的に示してほしい。問題点・改善点の「特になし」といった記述や問題解決の方策の記述がない。評価について、さらなる改善を求めたい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-24

事務事業名	移動教室関係費(小学校)	区分											
		行政	政策	基礎的・義務的	計画	新規	継続						
目的	保護者の負担軽減												
目標	校外の豊かな自然や文化に触れる体験、集団活動のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積ませるため、小学6年で行う日光移動教室に参加する児童に対し、補助金を交付することによって、保護者負担の軽減を図る。					評価年度に達すべき目標							
成果	・校外学習による歴史学習、集団宿泊体験充実、保護者負担軽減 (小学校6学年一人当たり8,000円) ・小学校6学年、日光移動教室、授業日に実施					評価年度に達した成果							
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度									
	5,334	5,430	5,289	(A) B・C・D									
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。													
問題点・改善点	特になし												
問題解決のための方策													
予算要求等今後の方針	児童数の増による増額。												
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	保護者の負担軽減を図る目的は達成できたと思うが、他市との比較などを含め実態把握に努め、補助金制度として課題があれば具体的に示してほしい。問題点・改善点の「特になし」といった記述や問題解決の方策の記述がない。評価について、さらなる改善を求めたい。												

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-25

事務事業名	部活動助成	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	部活動の充実と円滑な実施			
目標	外部人材の活用や大会参加助成をして、部活動内容向上と活性化を図る。		評価年度に達すべき目標	
成果	・外部指導員配置者19名(複数校担当あり) ・外部顧問指導員2名		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	6,447	4,173	6,329	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	各学校からの顧問指導員の配置要望が少ない。			
問題解決のための方策	中学校の部活動の実情把握と顧問指導員、技術指導員配置計画の見通しを立てる。			
予算要求等今後の方針	顧問指導員数減により予算を減らす。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	外部指導員を募ることによって、部活動の内容の向上や活性化が図られていると思うが、その点について、この評価では見えてこない。進捗度がAであることがわからない。市民の目線で評価すること期待する。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-26

事務事業名	移動教室関係費(中学校)	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	保護者の負担軽減			
目標	校外の豊かな自然や文化に触れる体験、集団活動のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積ませるため、中学2年で行う移動教室に参加する生徒に対し、補助金を交付することによって、保護者負担の軽減を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	・校外学習実施により自然体験、宿泊体験充実、保護者負担軽減(一人あたり8,000円) ・移動教室 2学年 2泊3日授業日に実施 目的地は学校によって異なる。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	3,912	3,496	3,768	(A)・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	特になし。
問題解決のための方策	
予算要求等今後の方針	生徒数減のため減額する。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	保護者の負担軽減を図る目的は達成できたと思うが、他市との比較などを含め実態把握に努め、補助金制度として課題があれば具体的に示してほしい。問題点・改善点の「特になし」といった記述や問題解決の方策の記述がない。評価について、さらなる改善を求めたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 2-27

事務事業名	修学旅行関係費	区分											
		行政	政策的	基礎的・義務的	計画	新規	継続						
目的	保護者の負担軽減												
目標	義務教育の総括として見聞を広めるとともに、集団生活のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むための修学旅行に参加する中学3年の生徒に対し、補助金を交付することによって保護者負担の軽減を図る。					評価年度に達すべき目標							
成果	・校外学習による歴史学習、集団宿泊体験等充実 ・3学年、2泊3日 京都・奈良方面3校 東北田沢湖方面1校 (一人あたり8,000円)					評価年度に達した成果							
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度									
	3,607	3,572	3,455	(A) B・C・D									
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。													
問題点・改善点	特になし												
問題解決のための方策													
予算要求等今後の方針	生徒数増のため増額する。												
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	保護者の負担軽減を図る目的は達成できたと思うが、他市との比較などを含め実態把握に努め、補助金制度として課題があれば具体的に示してほしい。問題点・改善点の「特になし」といった記述や問題解決の方策の記述がない。評価について、さらなる改善を求めたい。												

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-1

事務事業名	学校開放	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	児童に安全な遊び場を提供する。社会教育関係登録団体に学校施設を開放する。心身に障がいのある児童・生徒の地域活動への参加			
目標	各事業における地域住民の積極的な関わりの促進		評価年度に達すべき目標	
成果	市民ニーズに応じており、その役目を果たしている。遊び場開放延参加人数4,600人・学校体育館開放 延利用団体数2,465・学校グラウンド開放延利用団体数2,976		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	14,061	3,785	12,638	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	学校施設の開放で中学校の校庭開放の日数が不十分である。			
問題解決のための方策	中学校長へ協力の要請をする。			
予算要求等今後の方針	放課後子ども教室で土曜日に全校が実施すれば、遊び場開放は廃止する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	市民ニーズに応じてるとの記述があるが、市民ニーズがどのようなものなのか、もう少し説明する必要があるのではないかと感じた。問題解決の方策については、それだけでよいのか疑問に感じる。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-2

事務事業名	子どもフリースペース	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	児童に放課後の安全な居場所を確保する			
目標	集団での遊びを通して、児童の健全育成を図る		評価年度に達すべき目標	
成果	多くの児童の参加がある。延参加人数(37,227人)・延実施日数(1,132日)・実施小学校(5校)		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	11,137	12,822	(A) B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	狛江第三小学校のみ未実施
問題解決のための方策	狛江第三小学校にフリースペース専用室を設ける。
予算要求等今後の方針	20年度から、当事業は児童青少年課へ移行する。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	放課後の児童の居場所づくりとして、全小学校での早期実施を望む。全体の記述を通してフリースペースがどのように行われているのかわからない。また、問題点・改善点では、狛江第三小学校のみ未実施であることを取り上げているが、問題点や改善点はそれだけではないだろう。進捗度をAとした理由は何か。適切な自己点検と評価を期待したい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-3

事務事業名	こどもかけこみ110番	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	PTA連合会かけこみ110番実行委員会の協力を得て、子どもたちの学校外での安全確保に努める。			
目標	実行委員会の協力の下呼びかけ活動を強化し、プレート設置協力者の拡充を図る。		評価年度に達すべき目標	
成果	該当事案もなく、抑止効果を発揮している。 設置協力者数1,056人(20年4月末現在)		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	358	603	Ⓐ・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	なし			
問題解決のための方策	なし			
予算要求等今後の方針	引続き継続する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	PTA連合会の取組みは評価すべきである。子どもに対する犯罪の抑止効果は大きいと思われるので、継続して取り組んでほしい。問題点・改善点及び問題解決の方策は「なし」ではなく、成果を十分検証し、具体的に記入すべきである。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-4

事務事業名	青少年育成事業補助金	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	青少年育成団体に、補助金を交付することにより、青少年の健全な育成を図る。			
目標	青少年育成団体の活動が、充実・発展できるようにする。		評価年度に達すべき目標	
成果	2団体に5万円ずつ交付		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	—	100	①・②・③・④

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	なし
問題解決のための方策	なし
予算要求等 今後の方針	平成23年度までの補助とする。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	どのような団体に交付し、どのように活用されたのか記すべきである。補助金を交付することが成果ではないと思うので、十分留意してほしい。問題点・改善点及び問題解決の方策の「なし」との評価はいかがなものであるか。毎年度、補助金交付の必要性や効果について検証してほしい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-5

事務事業名	地域交流図書室やさきやま文庫読書推進事業	区分		
		行政	政策	基礎的・義務的・計画
目的	次世代を担う子どもたちに、3小の図書室を開放し、お話し会や工作などを通じて、健全育成に寄与する。			
目標	親子で参加してもらい、居場所づくりや地域活動の場を提供する。		評価年度に達すべき目標	
成果	子どもたちの居場所づくりとして一定の効果がある。 図書室開放 延参加人数185人・イベント開催 延参加人数275人		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	614	623	A・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	参加者が少ない。			
問題解決のための方策	広報活動及び企画立案を更に努力する。			
予算要求等今後の方針	前年同様			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	参加者が少ない点については、改善すべきであり、創意工夫が求められる。行事を中心とした展開を図っていくようだが、全体の記述から見えない点が多い。参加者について目標値を掲げることや企画立案、広報活動について方向性を示すことなどが必要ではないか。適切な自己点検と評価を期待したい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-6

事務事業名	子ども科学体験事業(子ども体験塾)	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	次世代を担う子どもたちに、科学体験教室に参加してもらう。			
目標	科学教室・ものづくり教室を通して、科学をより身近なものと感じる心を育てる。	評価年度に達すべき目標		
成果	大変好評で、多くの申込がある。 19年度実績 参加者67人(うち保護者22人)	評価年度に達した成果		
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	300	400	Ⓐ B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	なし
問題解決のための方策	なし
予算要求等今後の方針	市長会の補助が21年度限りであるため、22年度から公民館事業として展開していきたい。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	科学教室の実施内容を、もう少し詳細に記すべきではないだろうか。あわせて、子どもたちの代表的な感想や声も記してほしい。理科離れが懸念されている現状において、子どもたちの科学に対する興味や関心を育むことは大切である。参加者の評価も高いそうだが、問題点・改善点や問題解決の方策が、なぜ「なし」なのか。今後も本事業の継続を期待したいが、適切な自己点検と評価があってこそ、効果的な事業展開が図られるのではないかな。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-7

事務事業名	市民ホール指定管理業務費	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規 継続
目的	地域社会の文化・芸術の向上のため、指定管理者による市民ホールの管理運営			
目標	指定管理者制度を導入し、市民ホールの効率的な管理運営をする。		評価年度に達すべき目標	
成果	多くの市民が、市民ホールを利用している。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	100,332	100,332	Ⓐ・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	施設・設備等(舞台・音響設備・空調設備)の修繕が必要になる。			
問題解決のための方策	年次計画を立て、修繕する。			
予算要求等今後の方針	20年度から、地域活性課へ移行する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	予算が大きいにもかかわらず、成果など全体の記述が少ない。管理的経費が多いと思うが、目的や目標に照らし、成果についてもう少し把握する努力が必要ではないか。事業展開としては、指定管理者と行政がより一層の連携を図り、目的である地域社会の文化・芸術の向上のため努めるとともに、市民ニーズの把握に努めることを期待したい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-8

事務事業名	文化財保護関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	文化財の保存・活用を行い、次世代に継承する。			
目標	市文化財の指定、調査及び報告書の発行、保護管理などを行いながら、資料や情報の蓄積を図り、文化財の保存と活用に努める。		評価年度に達すべき目標	
成果	市文化財の指定、調査、保護管理などを行いながら、資料や情報の蓄積を図り、文化財の保存と活用に努めた。		評価年度に達した成果	
決算額	17年度	18年度	19年度	進捗度
	883	907	653	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	市民からの寄贈資料や収集資料などを保存管理する場の確保と、保存・活用・継承していく施設(博物館)の整備が必要			
問題解決のための方策	資料の収蔵・保存・活用の拠点となる施設については中長期的な検討が必要			
予算要求等今後の方針	前年同様			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	問題点・改善点の把握は、簡潔だが適当だろう。問題解決の方策に記されていることは、積年の課題であろう。成果について、抽象的すぎないか。具体的な記述があれば、わかりやすい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-9

事務事業名	埋蔵文化財保護関係費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	埋蔵文化財を良好な状態で保存し、次世代に継承する。			
目標	埋蔵文化財に関する照会や事業主との事前協議を行い、試掘調査などを実施し、その保護に努めるとともに、出土品の保管・保存に努める。		評価年度に達すべき目標	
成果	埋蔵文化財に関する照会や事業主との事前協議を行い、試掘調査などを実施し、その保護に努めるとともに、出土品の保管・保存に努めた。		評価年度に達した成果	
決算額	17年度	18年度	19年度	進捗度
	1,466	1,552	1,382	(A)・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	発掘調査の出土品は年々増加しており、出土品が収蔵・保存・活用できる施設(博物館)の設置が必要
問題解決のための方策	資料の収蔵・保存・活用の拠点となる施設については中長期的な検討が必要
予算要求等今後の方針	前年同様
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	文化財保護同様に、問題点・改善点の把握は、簡潔だが適当だろう。問題解決の方策に記されていることは、積年の課題であろう。成果について、抽象的すぎないか。具体的な記述があれば、わかりやすい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-10

事務事業名	郷土芸能保存会補助	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	地域に守り伝えられている祭りばやしの保存、継承			
目標	保存会に補助金を交付し、郷土芸能である祭りばやしの保存・継承を図る。	評価年度に達すべき目標		
成果	補助金の交付により道具の修繕、技術の向上、後継者育成が図られた。	評価年度に達した成果		
決算額	17年度	18年度	19年度	進捗度
	320	150	150	(A)・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	祭りばやし保存会は、経済的な基盤が弱く、道具の購入や修繕などの整備が思うようにいかない。
問題解決のための方策	郷土芸能である祭りばやしの保存・継承を図るためには継続的に保存助成を行うことが必要
予算要求等 今後の方針	継続的な支援が必要であり、保存会への補助金交付
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	成果について、抽象的すぎないか。狛江市文化財に指定されている5つの地区の祭囃子の継承に対し、継続的支援をしているそうだが、その辺の具体的記述が必要だろう。今後も継続的支援は必要だと思うが、自己点検と評価のなかで、その必要性をうたっていくべきであろう。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-11

事務事業名	古民家園指定管理業務費	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	古民家を文化遺産として保存、継承するとともに、ふるさとの歴史や文化に親しみ、伝統文化の体験学習などを通して、子どもから高齢者まで世代を超えた交流や、市民が積極的に参加できる、ふるさとづくりの拠点とする。			
目標	指定管理者による古民家園の管理運営	評価年度に達すべき目標		
成果	指定管理者による古民家園の管理運営	評価年度に達した成果		
決算額	17年度	18年度	19年度	進捗度
	7,400	7,587	7,587	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	主屋は歴史的建造物であるので年々痛みが生じてくる。			
問題解決のための方策	施設の修繕			
予算要求等今後の方針	茅葺屋根等の修繕費			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	管理運営が成果ではない。具体的な記述を望む。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 3-12

事務事業名	古民家復元	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	(新規) 継続
目的	古民家園内に長屋門を復元し、現在、歴史的建造物が荒井家住宅主屋の1棟だけの古民家園の屋敷構えの整備を行う。			
目標	平成11年に寄贈を受け、部材を保存している長屋門の実施設計を行う。		評価年度に達すべき目標	
成果	実施設計、ワークショップの開催		評価年度に達した成果	
決算額	17年度	18年度	19年度	進捗度
			3,780	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点				
問題解決のための方策				
予算要求等 今後の方針	長屋門復元工事費・工事監理業務委託料			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	問題点・改善点や問題解決の方策に記述がない。自己点検及び評価のさらなる改善を求めたい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-1

事務事業名	青少年事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	学校や年齢を超えた仲間づくり			
目標	より多くの子どもたちが参加できる場を提供		評価年度に達すべき目標	
成果	子どもの広場(全20回 1～2年生 425人・全20回 3～6年生 437人)・野外サークル(全11回 95人)・春休み将棋教室(全3回 101人)・青年教室(全50回 330人)・少年少女体験教室(全12回 94人)を開催し、今年度は新たに夏休み将棋教室(全3回・113人)・少年少女体験教室どろんCO農園(全8回・67人)を実施した。子ども・青年の居場所として公民館が定着しつつあり、おおむね好評を得ている。※人数はすべて延べ人数		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	1,164	1,243	1,590	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	塾通い等で、高学年の参加者の確保に苦慮している。事業内容が、他課と同じものにならないように考える。			
問題解決のための方策	主にアンケート実施や事業終了後の聞き取り調査等、青少年のニーズを把握し、事業内容の充実をはかる。他課との連絡を密にする。			
予算要求等今後の方針	将棋教室開催要望が、こちらの予想をはるかに超え非常に多かった。増額要求したい。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	地域との交流を図りながら進めている事業もあり、今後の展開を期待したい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-2

事務事業名	チャレンジ青年学級	区分		
		行政・ <u>政策</u>	基礎的・義務的・ <u>計画</u>	新規・ <u>継続</u>
目的	障がいのある青年の学習・文化・コミュニケーション活動の保障			
目標	障がいのある青年たちの学習・文化・コミュニケーション活動を保障し、仲間とともに暮らしを広げ、豊かにしていく力を育てる。		評価年度に達すべき目標	
成果	学級生のスポーツ、バンド活動、キャンプ、創作活動などを通じて地域社会や仲間との連帯が年間21回の学級活動の中で、徐々にではあるが育まれており、こうした社会参加が学級生の心を豊かにしているのも事実である。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	年度	年度	進捗度
	1,569	1,477	1,475	A・ <u>B</u> ・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	障がいを持つ学級生の事業展開には、どうしても数多くの手伝いをしてくれるボランティアが不可欠であり、現状としては不足気味である。
問題解決のための方策	近隣大学・社会福祉協議会や利用団体など関係機関に募集依頼を行っていく。
予算要求等今後の方針	無償ボランティアには、活動実費と交通費相当額を謝礼として支出していきたい。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	目標にある障がいのある青年たちの学習や文化、コミュニケーション活動を保障し、暮らしを豊かにしていくことは大切なことである。社会福祉の事業との関連がわからないが、その点も踏まえて点検評価にあたってほしい。ボランティア不足が課題のようだが、財政的な配慮も含め、人材確保に努めてほしい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-3

事務事業名	成人学習事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	生活文化の振興・社会福祉の増進			
目標	実際生活に即するテーマを取り上げ、暮らしを見つめる学習を進め、社会教育活動の契機とする。		評価年度に達すべき目標	
成果	別事業で「こまえ市民大学」を展開しており、内容的・時間的に競合する面もあり、19年度においては企画を見送り、事務事業のあり方等公民館運営審議会の中で取り上げ、次年度以降の課題とした。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	224	209	0	A・B・C (D)

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	「こまえ市民大学」との内容的・方法的アプローチの整理など、事務事業として単独事業として継続するか今後の課題である。
問題解決のための方策	高齢者学習事業を統合し、成人という枠でとらえ、広く市民に学習機会を提供する。
予算要求等今後の方針	高齢者学習事業を廃止し、成人学習事業に統合したため増額。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	予定していた事業を実施できなかった点は大いに反省すべきであるが、事業のあり方を問う姿勢は評価できる。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-4

事務事業名	女性セミナー	区分		
		行政	政策	基礎的・義務的・計画 新規・継続
目的	女性自立のための学習内容の提供			
目標	女性の自立や子育ての悩みを主題とした学習機会の提供		評価年度に達すべき目標	
成果	セミナー1では、思春期の難しい時期を乗り越えるにはどうしたら良いか、学校教育、栄養学、心理学、電話相談室等第一線で活躍する講師陣による講義や意見交換により、新たな活動団体が誕生し成果を出せた。またセミナー2では母と子だけの生活から一歩踏み出し、自分自身を見つめなおすきっかけを事業展開し、これもまた同じ悩みを持つ母親同士の団体が誕生し、一定の成果を見た。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	1,147	1,143	987	A (B)・C・D

※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	一人親や共働きの同じ悩みを持つ方々の参加を促進するよう、いかに取り組んでいくかが最大の課題である。
問題解決のための方策	PTAとの連携やあらゆるメディアを通じて参加者確保に努める。
予算要求等今後の方針	引き続き、現状の中で工夫していく。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	女性セミナーの成果として参加者数を評価するのではなく、この事業がきっかけで参加者が連携できたことを評価していることに好感が持てる。今後も創意工夫をもって事業を展開されたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-5

事務事業名	学習グループ保育	区分		
		行政・ 政策	基礎的・義務的・ 計画	新規・ 継続
目的	母子の学習機会の援助			
目標	初めて学習グループ保育に参加する母親も、継続して子どもを預け、運営会議にも参加することで、自分の育児や価値観を振り返る学習をしてもらい、学習全体の充実を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	学習グループ保育をしている6グループ25人が継続して保育に参加継続した保育により、単なる託児場所にとどまらず、子どもが仲間との関わりの中で、親も子も互いに成長できるような保育室運営ができた。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	674	673	683	A・ B ・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	公民館保育室の周知を図る。			
問題解決のための方策	児童館や家庭支援センター等を通じて参加者確保に努める。			
予算要求等今後の方針	引き続き、育児期の女性の学習活動を支えていくことが出来るよう予算を確保していく。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	成果をもう少し具体的に示してほしい。子育て中の女性に対する学習機会が確保されていることは評価すべきであるが、保育室運営のあり方について見直す必要はないのであろうか。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-6

事務事業名	高齢者学習事業	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	高齢者の学習機会の充実及び自主グループの育成			
目標	自主グループ成立と学習成果の地域社会への還元		評価年度に達すべき目標	
成果	平成19年度実施事業「染めよう！使おう！Myふるしき」の継続学習を目的とした染色の自主グループが成立し、地域活動の基礎となる市民のつながりが広がった。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	282	233	292	A・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	高齢者学習事業、成人学習事業、こまえ市民大学の講座の違いや参加者年齢の重複など、高齢者学習事業の枠を設定することが難しい。			
問題解決のための方策	成人学習事業に統合し、「高齢者」の枠をこえて広く市民に学習機会を提供する。			
予算要求等今後の方針	廃止			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	どのような取り組みをしたから成果があがったのか、具体的に示してほしい。ニーズを把握した上での廃止なのかが問題であるが、問題点・改善点や問題解決の方策からは代替措置があることがうかがえる。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-7

事務事業名	国際交流事業	区分		
		行政	政策	基礎的・義務的・計画
目的	外国から日本に来た方々が、日本語及び生活文化を学ぶ場として日本語教室を開催			
目標	外国人に継続した学習の場の提供		評価年度に達すべき目標	
成果	受講者延881名で出身地は中国、韓国、タイ、フィリピン、アメリカ他前8カ国に及び、協力スタッフのおかげで年間37回の授業を開催し、日本語を学ぶことを通じて、国を越え受講者同士がふれあい、学びあい、連帯の輪が広がり、地域との関わりが徐々にではあるが生まれている。17年度：無償ボランティア延884名、18年度：無償ボランティア延884名、19年度：無償ボランティア延580名		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	300	300	300	A・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	年々減少するボランティア不足により、スタッフの負担が増加している。
問題解決のための方策	広報だけでなく、市ホームページや公民館だよりなど、あらゆるメディア通じPR活動を展開していく。
予算要求等今後の方針	継続して、安定した運営が出来るよう予算を確保していく。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	日本語や日本の生活文化を学ぶ機会として有意義であるとともに、市民レベルでの交流が進んでいることは評価できる。今後も充実を図られたい。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-8

事務事業名	市民劇場	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	市民による文化創造の援助			
目標	映像や音楽等の文化に気軽に親しむ機会とするとともに、市民の文化活動の育成・援助を行う。			評価年度に達すべき目標
成果	西河原公民館施設の特性を生かした西河原映画会は約2,000人の入場者があり、映画館等へ足を運ぶことが出来ない方など多くの市民に楽しんでもらえた。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	897	933	895	A (B) C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	映写媒体の変化により(16ミリからDVDへ)16ミリ映写機のユーザーが減りニーズが減退している。			
問題解決のための方策	20年度をもって16ミリ映写機操作講習を打ち切った。			
予算要求等今後の方針	操作講習打ち切りに伴い減額			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	成果について、もっと詳しく記すべきではないか。市民が楽しむという点は評価できるが、一方、市民ニーズという点で創意工夫が求められていることは事実であろう。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-9

事務事業名	公民館交流事業	区分											
		行政	政策	基礎的・義務的	計画	新規	継続						
目的	市民活動の発展・交流及び公民館活動の発信の場とする。												
目標	公民館利用団体の積極的参加と多くの市民の来場					評価年度に達すべき目標							
成果	73団体の参加で多彩な催物が展開でき、利用団体の活動成果発表の場として目標になり、また多くの市民に日頃の公民館活動に触れてもらう機会及び交流の場となっている。					評価年度に達した成果							
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度									
	249	249	249	A・B・C・D									
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。													
問題点・改善点	利用団体により実行委員会を組織し運営に当たっているが、事業後の反省会においても特に問題点はない。												
問題解決のための方策	なし												
予算要求等今後の方針	現有予算を維持していきたい。												
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	成果を全部記すのは困難としても、可能な範囲で例示すべきではないか。実行委員会形式で事業展開をしているが、問題点・改善点がないということはあるのではないかな。												

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-10

事務事業名	図書室	区分							
		行政	政策	基礎的・義務的	計画	新規	継続		
目的	市民の学習活動の援助、情報の提供								
目標	資料の一層の充実					評価年度に達すべき目標			
成果	DVD整備 DVDプレーヤー4台 と DVDソフト47本(H19.3.31現在)を整備し、西河原公民館図書室の特色である視聴覚資料を充実させた。和泉小と連携し、2年生を対象として地域の図書室としての利用を促進した。また、幼児を対象としたお話を46回開催し、延べ849人の参加者があった。					評価年度に達した成果			
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度					
	7,344	7,234	7,768	A (B) C・D					

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	ハード面及びソフト面でのVTRからDVDへの移行(メーカーのVTR生産からの撤退)が早く、その両面整備が急務である。
問題解決のための方策	現存のVTR機器・資料をもって終了とし、DVD整備に努める。
予算要求等今後の方針	地域の中の図書室として、一般書の整備にとどまらず、和泉小との連携をとりつつ児童書等の充実を図っていく。 また、西河原公民館図書室の特色であるAV資料において、VTRからDVDへの移行を推進していく。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	問題点・改善点と問題解決のための方策が、設備面に留まっていることは残念である。地域の図書室としての課題も捉える必要があるのではないか。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-11

事務事業名	こまえ市民大学	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規・継続
目的	系統性・継続性をもった市民の学習機会の提供			
目標	運営委員会による市民による市民のための学習の創造		評価年度に達すべき目標	
成果	市内にある身近な病院や事業所(慈恵病院、電力研究所)と連携し、健康や環境問題といった身近な問題を取り上げた講座や歴史・文化など幅広く事業展開し、延べ489人の受講者があり、アンケートでは概ね好評を得ており、リピーターの方も数多く見受けられ、概ね好評を得ている。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	681	532	579	A (B) C D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	参加者の若い世代の掘り起こしが今後の課題である。			
問題解決のための方策	あらゆるメディアを通じて参加者確保に努める。			
予算要求等今後の方針	市民の学習要求に応えるためにも、講座企画が豊かに充分にできるよう、予算確保していきたい。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	成果が抽象的。「参加者確保」という言い方、考え方には問題があるのではないか。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 4-12

事務事業名	情報学習事業	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	市民による公民館の活用			
目標	パソコン室使用者協議会による自主的で活発な活用			評価年度に達すべき目標
成果	許可カード発行者(協議会会員)は100人となり、学習要求に応えるため、勉強会を拡充し、参加者は述べ2,026人となっている。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	147	379	425	A・(B)・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	年々参加者が増え、所有備品(パソコン)が不足気味である。			
問題解決のための方策	年々増加する参加者に対応するため、運営体制の整備を検討			
予算要求等今後の方針	ハード・ソフトの進化に伴い、学習環境整備ができるように予算要求をしていきたい。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	問題点・改善点と問題解決のための方策が、設備面に留まっていることは残念である。運営面の課題も捉える必要があるのではないか。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 5-1

事務事業名	読書推進	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	幼児・児童から大人まで、又、健康者・障がい者を問わず全ての市民に本と触れ合い親しんでもらう。			
目標	各種事業への参加やサービスの利用の促進		評価年度に達すべき目標	
成果	事業への参加等が促進された。 子どもおはなし会(子ども481人・保護者201人) 親子で楽しむおはなし会(子ども860人・保護者800人)		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	258	170	256	A・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	大人を対象とした事業の構築、障がい者サービスの促進			
問題解決のための方策	大人を対象とした文学散歩等の事業を復活、障がい者サービス促進のための体制の整備等、目的実現のために手段の多様化を図る。			
予算要求等今後の方針	文学散歩等の事業復活に伴う経費の上積み、ボランティアの活用も含めたサービス体制の整備			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	全体的に記述が抽象的である。改善を求めたい。問題点・改善点に記されたとおり、今後は大人や障がい者を対象とした事業実施も、財政的な調整は必要であろうが、検討する必要があるだろう。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 5-2

事務事業名	ホームページ運営費	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	ホームページにより、市民への図書館サービスの向上を図る。			
目標	ホームページの利用者の拡大を図る。		評価年度に達すべき目標	
成果	アクセス件数の増加 (15年度 46,241件 18年度 80,101件 19年度 96,749件)		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	4,938	4,200	2,586	A・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	利用者にとって活用しやすい検索画面及び内容の見直し			
問題解決のための方策	プログラム変更等			
予算要求等今後の方針	更新に伴う予算措置			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	成果について、具体的数値目標は設定しないのか。ホームページについては、見やすさ、使いやすさとあわせて、検索機能の拡充を図り、利用拡大を期待する。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 5-3

事務事業名	ブックスタート事業	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	より良い親子関係を育むため、本を通して幼児と触れ合う機会の意義や方法を保護者に伝える。			
目標	3、4か月健診時に本の読み聞かせの意義の説明と絵本セットの配付を行う。		評価年度に達すべき目標	
成果	おはなし会などの図書館事業への参加や図書館利用が促進された。 19年度配付実績 591冊		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	601	584	608	A・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	保護者に対する趣旨説明のための表現方法等の工夫の必要性がある。			
問題解決のための方策	説明員の交流・研修による表現力の向上			
予算要求等今後の方針	従来どおり			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	進捗度の評価と、問題点・改善点及び問題解決の方策が一致しているのか。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 5-4

事務事業名	親子読書推進事業	区分		
		行政・政策	基礎的・義務的・計画	新規・継続
目的	図書館を身近なものとするとともに、親子が家庭で、読書を通じてふれあいの時間を持つきっかけをつくる。			
目標	各種子ども向け体験事業などへの参加を促進する。		評価年度に達すべき目標	
成果	各種事業への参加者の増加 852人 対象年齢0～15歳の貸出冊数が17年度:12,595冊 から19年度:17,099冊 へ増加している。		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	1,158	989	A・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	なし
問題解決のための方策	なし
予算要求等今後の方針	市長会補助金(多摩・島しょ子ども体験塾助成制度)を活用した事業
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	対象年齢の貸出冊数が増えており、その点では評価できるが、目的と目標がどのように関連するのかわからない。また、問題点・改善点及び問題解決の方策は「なし」ではなく、成果を十分検証し、具体的に記入すべきである。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 6-1

事務事業名	市民健康レクリエーション	区分		
		行政 ☒ 政策	基礎的・義務的 ☒ 計画	新規 ☒ 継続
目的	市民の体力維持、健康増進を図る。			
目標	市民の体力維持、健康増進を図る。スポーツは特に中高年の生きがいつくりや健康つくりには効果的であることから、医療費縮減や介護予防等に寄与する。		評価年度に達すべき目標	
成果	実施種目5種目 利用者25,970人、トレーニング室 利用者16,059人 エアロビ、シルバー体操、健康体操の3教室を実施 利用者7,798人		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	16,528	6,994	7,825	A ☒ B ☐ C ☐ D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	個人開放について、教室等の実施種目や実施時間帯により参加者が少ないものがある。			
問題解決のための方策	個人開放種目や実施時間帯を見直しや、PR方法の見直しを図る。			
予算要求等今後の方針	市民健康レクリエーション事業については、21年度から指定管理者が事業を継承し実施する予定となっているので、指定管理者と実施種目等の協議をして、事業等の見直しを行いながら検討をしていく。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	スポーツに親しむ環境づくりに取り組んでいるが、各年代層へどのようにアピールしていくか検討する必要性を感じる。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 6-2

事務事業名	少年少女スポーツ振興	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	新規 (継続)
目的	青少年の健全育成及びスポーツ振興を図る。			
目標	小中高生対象のスポーツ教室や大会を実施し、スポーツを通じて、青少年の健全育成とスポーツの振興を図る。			評価年度に達すべき目標
成果	野球、サッカー、剣道、綱引き、バドミントンの5大会を実施 参加者995人 バドミントン、フットサル、バレーボールの3教室を実施 参加者延べ981人			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	2,353	2,455	2,627	A (B) C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	スポーツ教室や大会の実施種目の中には参加者の少ない種目がある。			
問題解決のための方策	実施種目、実施方法の見直しやPR方法の再検討を行うと共に、地域住民との協働により、さらに充実を図っていくため、その受け皿として総合型地域スポーツクラブの設立を促進するなどの取り組みを行っていく。			
予算要求等今後の方針	事業実施方法等を見直し、予算要求を行う。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	小中学生の体力低下が危惧されているが、学校教育のなかではできない競技スポーツなどについて子どもたちのニーズを把握するとともに、地域の方々の協力を得たスポーツ環境づくりの推進に努められたい。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 6-3

事務事業名	市民スポーツ大会関係	区分		
		行政・ <u>政策</u>	基礎的・義務的・ <u>計画</u>	新規・ <u>継続</u>
目的	市民を対象に、市民スポーツ大会、市民スポーツレクリエーション・フェスティバルの実施			
目標	大会及びフェスティバルの実施により、スポーツを通じて市民の健康づくりや市民相互の交流の場を広げ、合わせてスポーツの振興と競技力の向上を目指す。			評価年度に達すべき目標
成果	市民スポーツ大会15競技 参加者3,126人 市民スポーツレクリエーション・フェスティバル8大会 参加者1,928人			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	2,591	2,641	2,641	A・B・ <u>C</u> ・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	実施種目が固定化されており、参加者は前年度より増加しているが、実施競技や場所により参加者が年により増減しており、実施競技や日程、場所等を含めた検討が必要と思われる。
問題解決のための方策	気軽に参加しやすい競技種目の設定、実施時期、実施場所の見直しやPR方法の見直し等により、大会への参加促進を図る。
予算要求等今後の方針	実施種目や実施方法等の見直しを体育協会とも協議をしたうえで、予算要求をしていく。
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	市民レクリエーション的な要素を取り入れた、異年齢層が集える、市民交流が図れる、スポーツ環境づくりに期待する。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 6-4

事務事業名	西和泉体育館・西和泉グランド施設開放	区分		
		行政 ☒ 政策	基礎的・義務的 ☒ 計画	新規・ ☒ 継続
目的	旧学校施設である、西和泉体育館及び西和泉グランドをスポーツ施設として有効活用する。			
目標	スポーツ振興のため、西和泉体育館及び西和泉グランドをスポーツ施設として継続的に有効活用する。		評価年度に達すべき目標	
成果	西和泉体育館 利用者16,730人、西和泉グランド 利用者19,221人、個人開放59人		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	4,127	3,866	3,482	☒ A・B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A:評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B:評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C:評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D:評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	平成21年度までの暫定利用ということもあり、施設及び設備の整備が十分にできない。またグランドが狭く実施できる種目に制約があり、体育館も老朽化が進んでいる。			
問題解決のための方策	今後の利用形態の決定をみて検討する。			
予算要求等今後の方針	今後の利用形態の決定をみて検討する。			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	問題点・改善点と進捗度が結びつかない。進捗度をAとした理由は何か。今後も、施設の有効活用に期待するとともに、暫定活用の期限やその後についても検討を要するのではないと思われる。残念ながら、その記述がない。			

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 6-5

事務事業名	体育施設改修工事	区分		
		行政 (政策)	基礎的・義務的 (計画)	(新規)・継続
目的	元和泉テニスコート、市民プール等体育施設の計画的改修			
目標	元和泉テニスコート、市民プール等の計画的改修。また、指定管理者への移行を踏まえた市民グラウンド等の体育施設の改修を計画的に進める。		評価年度に達すべき目標	
成果	元和泉テニスコート及び元和泉スリーオンスリーコート改修工事の竣工、市民プール改修工事の実施		評価年度に達した成果	
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	—	228,459	(A)・B・C・D

※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。
 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。
 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。
 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。

問題点・改善点	特になし
問題解決のための方策	特になし
予算要求等今後の方針	計画に基づき要求
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	計画的に施設改修を進めていることは評価できる。ただし、施設の改善が目的であるということで、問題点・改善点及び問題解決の方策が「特になし」でよいのであろうか。

平成20年度 狛江市教育委員会の自己点検及び評価表

整理番号 6-6

事務事業名	ふれあい広場等用地返還	区分		
		行政	政策	基礎的・義務的 計画 新規・継続
目的	市民ふれあい広場及び駐車場用地を東京都へ返還するため構造物を撤去			
目標	市民ふれあい広場及び駐車場用地の構造物を19年度中に撤去し、借用以前の状態に戻す。			評価年度に達すべき目標
成果	ふれあい広場は19年7月末、駐車場用地は19年12月末に東京都へ返還した。			評価年度に達した成果
決算額(千円)	17年度	18年度	19年度	進捗度
	—	—	34,323	(A) B・C・D
※ 進捗度 ⇒ A: 評価年度の計画目標を達成し、順調に推移している。 B: 評価年度の計画目標は達成できなかったが、順調に推移している。 C: 評価年度の計画目標は達成できたが、進捗が遅れている。 D: 評価年度の計画目標が達成できず、進捗が遅れている。				
問題点・改善点	特になし			
問題解決のための方策	特になし			
予算要求等今後の方針	19年度のみで20年度は予算要求なし			
自己点検及び評価に関する審査委員会の見解	ふれあい広場を返還することが目的であるだろうが、問題点・改善点及び問題解決の方策が「特になし」でよいのであろうか。			

狛江市教育委員会の自己点検及び評価実施要綱

平成 20 年 12 月 22 日
教育委員会 要綱第 23 号

(目的)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号、以下「地教行法」という。）第 27 条に基づき実施する狛江市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等の方法等について規定する。

(定義)

第 2 条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 事務事業 教育行政課題等に対応するために具体的な方策及び対策として実施する個々の事務及び事業をいう。

(2) 点検及び評価 事務事業の効果等を分析し、検証することをいう。

(内容)

第 3 条 点検及び評価は、事務事業の所管課が行う。

2 点検及び評価は、原則として評価実施年度の前年度の成果に基づいて行う。

(対象)

第 4 条 教育委員会の権限に属する事務事業のうち、教育長が成果重視の効果的な教育行政を推進するとともに、市民の視点に立った教育行政に資することを踏まえ、市民への説明責任を全うするために点検及び評価が必要であると判断したものとする。

(審査委員会)

第 5 条 点検及び評価において、地教行法第 27 条第 2 項に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置する。

2 審査委員会は、教育委員会が行う自己点検及び評価の結果を踏まえ、第三者的立場から事務事業について審査し、評価意見を付するものとする。

3 審査委員会の規定については、教育長が別に定める。

(報告及び公表)

第 6 条 教育長は、審査委員会による審査を経た点検及び評価の結果について、すみやかに教育委員会に報告するとともに、地教行法第 27 条第 1 項に基づき、狛江市議会に報告し、公表しなければならない。

(庶務)

第 7 条 点検及び評価に関する庶務は、教育部学校教育課教育庶務係が行う。

(委任)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、公布の日から施行する。

狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会設置要綱

平成 20 年 12 月 22 日
教育委員会 要綱第 24 号

(目的)

第 1 条 狛江市教育委員会の自己点検及び評価実施要綱（平成 20 年 12 月 22 日狛江市教育委員会要綱第 23 号）第 5 条に基づき、狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 審査委員会は、狛江市における教育の今日的な状況を踏まえ、教育の質の向上に資するよう、教育委員会が効果的に教育行政を行うとともに、教育的な観点から適切に教育行政が行われているか、教育委員会の自己点検及び評価の結果について審査し、評価意見を付するものとする。

(組織)

第 3 条 審査委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

(1) 教育に関する学識経験者 2 名

(2) 教育部長 1 名

2 審査委員会に委員長、副委員長各 1 名を置き、委員の互選によってこれを定める。

3 委員長は所掌事項について審査委員会を統括する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、委員となった日から 2 年を超えない 3 月 31 日までとする。ただし、再任を妨げない。

(招集及び審査委員会)

第 5 条 審査委員会は委員長が招集する。

2 審査委員会は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(関係者の出席)

第 6 条 委員長は、必要と認めるときは、所管課長を審査委員会に出席させ、説明を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第 7 条 審査委員会に関する庶務は、教育部学校教育課教育庶務係が行う。

(委任)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、審査委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、公布の日から施行する。

登録番号（刊行物番号）

H20-36

平成 20 年度 教育委員会の自己点検及び評価報告書
（平成 21 年 3 月発行）

発行日 平成 21 年 3 月 31 日

発行者 狛江市教育委員会

編集者 狛江市教育委員会 教育部学校教育課

狛江市和泉本町 1-1-5

電話 03 (3430) 1111

印刷 庁内印刷

頒布価格 90 円